

ベストペーパー賞・ベストペーパー特別賞・若手学生奨励賞 選定記

石井信明（第15回情報システム学会・研究発表大会 BP賞選定委員長）

第15回情報システム学会研究発表大会が2019年11月30日（土）に開催され、ベストペーパー賞・ベストペーパー特別賞・若手学生奨励賞の3賞が選定されました。

【おめでとう！ 受賞者の皆様】

- ベストペーパー賞
小関健太郎（慶應義塾大学大学院）、森田武史、山口高平（慶應義塾大学）：上位オントロジーに基づくオントロジー統合と質問応答システムへの応用
- ベストペーパー特別賞
吉次なぎ、阿部真也（東京都立産業技術研究センター）、山本佳世子（電気通信大学）：災害危険度を考慮した避難経路の導出
- 若手学生奨励賞
服部友俊（慶應義塾大学大学院）：ITSオントロジーを利用した標準化活動支援システムの構築

【各賞選定のプロセス】

各賞は、次の手順にて選考にいたしました。基本的に昨年と同様の手順です。

手順1（BP賞選定委員の選出）：今大会では、実行委員会により6名の委員が選出された。

手順2（論文内容確認）：各委員は、期限までに投稿された論文をダウンロードして内容を確認する。

手順3（予備評価）：各論文について、大会当日に発表を“是非聴きたい／できれば聴きたい／聴かなくてもよい”との希望を各委員からとり、希望者の多いセッションの重複が少なくなるようにプログラムの調整を行う。

手順4（各賞選定）：各委員は、論文内容と大会当日の発表内容とを総合評価し、発表終了後に合議により委員全員が思いを共有して、各賞の該当者を決定する。

以上の手順で選ばれたのが上記の各賞です。

【各賞の特徴と注目される観点】

ベストペーパー賞では、情報システム論文としての内容、アイデアの新規性、完成度、情報社会における有用性などが総合的に判断されます。

小関健太郎さんらの発表は、「複数の異なる知識ベースを組み合わせる有効な方法を示

すことで、情報システムの新たな可能性を引き出すことが期待できる研究であること」「応用範囲が広く、今後の研究成果が社会の広範囲で活用されることが期待できること」、などが評価されました。

ベストペーパー特別賞では、ベストペーパー賞と比較すると、もう少し広い視野で論文内容と発表内容が総合的に判断されます。

吉次なぎさんらの論文は、「災害時の避難経路について、非難時の安全性を定量的に評価し、迂回路を含めた複数候補を導出しており実用性が高いこと」、「外国人への配慮を検討していること」、「アプリ化により有用性の高まりが期待できること」などが評価されました。今後も研究を継続され、多くの方々が利用できる環境を構築されることへの期待も込めて、今回の受賞となりました。

若手学生奨励賞は、これからの情報システム学会を担う若手研究者の増加を期待して設けられた賞であり、若手学生の該当者として4つの条件が付されています。それらは、研究発表会当日において、「①大学に在籍中の大学生または大学院生であること（ただし、社会人の学生は除く）、②30歳未満であること、③論文の第一著者でかつ発表者であること、④提出期限までに論文を投稿していること」の全てが満たされていることです。

服部友俊さんの発表は、「広範囲に利用できる研究であり、実務での利用が期待できること」、「研究の成果としても有用であること」、「情報システムならではの研究であること」、などが評価されました。

【BP賞の選定を終えて】

ダウンロードした論文を確認した段階では、各委員の意見にはばらつきがありました。そのため、大会当日の選定の困難が予想されました。実際、選定会議では、委員の間で多くの意見が交わされましたが、各賞の選定方針に従い、最終的にまとめることができました。

選定委員は全ての論文を読み、大会当日は手分けして全ての発表会場を回って情報を交換しました。そして、受賞論文以外の発表にも興味深い話題がたくさんあることを共有しました。ぜひとも、今回発表をされなかった方々を含め、次回大会でのチャレンジをお願いします。さらに、今回発表された方々は、論文の内容をもう一度見直され、情報システム学会誌に投稿されることをお待ちしております。

以上